

りんご新品種「きたろう」の特性

1. 試験のねらい

本県で栽培されているりんごの品種は、早生種の「つがる」、晩生種の「ふじ」が大半を占めている。本県のりんご栽培は観光直売が主体であることから、「つがる」と「ふじ」の間に成熟する優良な中生品種が望まれている。そこで、中生で食味の良い「きたろう」の特性を明らかにした。

2. 育成の経過および来歴

りんご新品種「きたろう」は、農林水産省果樹試験場リンゴ支場において、「ふじ」に「はつあき」を交配して育成された中生の黄色品種で、平成9年8月に命名登録された。

当场では平成元年から「リンゴ盛岡52号」の系統名で導入し、試作検討を行った。

3. 特性の概要

- (1) 樹勢は中程度で、樹姿は直立と開帳の中間、短果枝、えき花芽の着生は中程度である（表-1、2）。
- (2) 開花期は主要品種の「ふじ」とほぼ同時期である。収穫期は9月中旬から10月上旬で「千秋」とほぼ同時期で（表-1、2）、収穫前落果がやや多い。
- (3) 平均果重は 250～270 g、果皮色は黄色で、陽光面は淡紅色に着色する。果形は扁円形でさびの発生が多く外観はやや劣るが、糖度は13.7%、酸度0.45%と甘酸適和で肉質が良く、食味は良好である（表-3、4）。
- (4) 斑点落葉病に対して抵抗性であり、その他の主要病害虫については慣行防除で特に問題はない。

4. 栽培上の留意点

- (1) 収穫前落果が多いので、適期収穫に注意する。また、落果防止剤の適用が認められれば、散布するのが望ましい。
- (2) 果面にサビが出やすいので、幼果期に小袋掛けを行ったり、薬剤散布時に炭酸カルシウムを混用し、果面保護に努める。

5. 成果の要約

りんご新品種「きたろう」は、9月中旬から10月上旬に収穫される中生の黄色りんごで、サビの発生がやや多いが、平均果重は 250～270 g、甘酸適和で食味が良い。

(担当者 果樹部 石下康仁*) *現氏家農業改良普及センター

表-1 「きたろう」の生育特性

年次	樹齡	樹勢	樹姿	短果枝 着生	えき花芽 着生	開花盛り 月.日	収穫期		
							始	盛	終
平成8年	4	やや弱	中	中	中	5.8	—	10.7	—
平成9年	5	やや弱	中	中	少	4.30	9.22	9.26	10.2
平成10年	6	中	中	中	中	4.25	9.14	9.26	10.2

表-2 「千秋」との生育特性比較

品種名	樹勢	樹姿	短果枝 着生	えき花芽 着生	開花盛り 月.日	収穫期		
						始	盛	終
きたろう	中	中	中	中	5.1	9.18	9.28	10.2
千秋	中	中	少	中	5.1	9.21	9.26	10.4

注. 平成8~10年の平均値。

表-3 「きたろう」の果実特性

年次	樹齡	果重 g	硬度 lbs	糖度 brix%	酸度 %	肉質	外観	果形	玉揃い	サビ	
										位置	量
平成8年	4	271	12.1	15.7	0.59	やや良	中	円	中	梗あ	少
平成9年	5	255	11.4	12.7	0.36	やや良	やや不	扁円	中	全面	中
平成10年	6	259	12.9	12.8	0.41	良	中	扁円	やや良	側面	中

表-4 「千秋」との果実特性比較

品種名	果重 g	硬度 lbs	糖度 brix%	酸度 %	果形
千秋	228	11.0	13.8	0.38	扁円

注. 平成8~10年の平均値。